

大学院看護学研究科		授業科目	急性期看護援助論 Nursing Care of Critically Ill Patients			担当教員	江川 幸二（専任） 平尾 明美（専任）
開講年次	1年次前期	単位数	2単位	科目	専門科目	授業形態	講義
選択 必修	選択	時間数	30時間	分類	実践看護学	使用教室	
授業の目的及びねらい							
急性期やクリティカル状況にある患者は、突然の発症や予後に対する不安・恐怖、さらには外傷や手術療法、検査・治療、疾病そのものからくる疼痛・倦怠感および呼吸・循環不全の症状など、身体・心理・社会的な高度の苦痛を体験する。こうした患者に対する苦痛や症状を緩和するためのcomfortケアは、急性期看護に必須のものである。本科目ではこうした苦痛や症状を緩和するために活用できる理論や概念を幅広く探求し、その実践への応用について考察する。							
授業のキーワード							
クリティカルケア、comfort、症状緩和、ホリスティックアプローチ、ケアリング、代替療法（CAM）							
講義回数	授業内容及び計画						
第1回	オリエンテーション						
第2回	クリティカルケア領域におけるトピックおよびクリティカルケア看護の専門性についての議論						
第3回	クリティカルケア状況にある患者・家族の体験の特徴について						
第4回							
第5回	クリティカルケア領域における comfort ケア						
～	クリティカルケアにおける comfort ケアの特徴、困難性について文献検討を通して議論する。						
第8回							
第9回	CAM とクリティカルケア看護						
～	関心のある CAM をとりあげ、クリティカルケア看護における活用可能性、注意点などに関して文献検討を通して議論する。						
第12回							
第13回	自己の看護事例の検討						
～	自己のクリティカルケアにおける看護体験をできるだけ詳細に記述し、ここまでの授業で検討してきた援助理論や方法をもとに、クリティカルケアにおける看護のあり方について理論的根拠にもとづいて考える。						
第15回							
テキスト	使用しない						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> • Mariah Snyder, Ruth Lindquist（野島良子、富川孝子監訳）心とからだの調和を生むケア 看護に使う28の補助的／代替的療法、へるす出版、1999 • Joanne C. McCloskey, Gloria M. Bulechek（中木高夫、黒田裕子監訳）看護介入分類（NIC）原著第3版、南江堂、2002 • Barbara Montgomery Dossey □ Holistic Nursing. Aspen, 1999 						
成績評価の方法と基準	授業への参加態度（40％）、プレゼンテーション（60％）						
教員から学生へのメッセージ	クリティカルケア看護における患者・家族の体験について、およびcomfortとは何かについての文献をできるだけ多く読む努力をしてください。またCAMの活用可能性についても検討しますので、関連する海外文献も意欲的に読む必要があります。						